



目指すは五輪、ボルダーの頂点。 夢に向かって、ばく進中！

仙台市萩野町にある『BOLZ(ボルズ)』で、さまざまな色や形のホールドをつかみながら高い壁をスイスイと登っていく千葉陽仁(はると)さんと木村芹乃(せの)さん。ボルダリングは、2020年の東京オリンピックから公



十符人

「十符人(とふと)」では、毎月、利府の魅力づくりや魅力発信に貢献している方を取り上げていきます。

式種目となったスポーツクライミングのひとつで、人気急上昇。「五輪のボルダリング競技をテレビで見て、カッコいい！自分もやってみたい！」と思ったと陽仁さん。小学4年生でボルダリングを始め、昨年から『のぼコン・キッズシリーズ』に出場。今年の東北年間ランキングで一位に。「これからは公式大会や全国大会でも活躍したい」と話し

クライミング&ボルダリングジムBOLZ(ボルズ)所属

(左から) 木村 芹乃さん 千葉 陽仁さん

木村 芹乃: 2014年、利府町生まれ。しらかし台小学校6年生。「のぼコン」キッズシリーズ東北5th年間ランキング4位。同ジャパンカップ・ランクB(学年別)3位。
千葉 陽仁: 2011年、利府町生まれ。利府中学校2年生。「のぼコン」キッズシリーズ東北5th年間ランキング1位。第2回全国中学生ボルダー競技大会4位。

二人とも利府町在住のボルダーとして活躍中。『利府町夢チャレンジ応援事業』を活用。



- ※1: 壁に埋め込まれた人工石の突起物。
- ※2: 自分の体ひとつで、指定されたホールドを掴みながら壁を完登する競技。課題の達成度や成功度のポイントを競う。
- ※3: 日本各地で開催されているボルダリングのコンペティション。キッズシリーズでは小学1年生から中学3年生までが90分のセッション方式で競い合う。
- ※4: 完登するまでに掴んで良いホールドの色や形などが指定。課題に合わせて壁を登る体力や体の動かし方、判断力なども求められる。
- ※5: スポーツや文化・芸術活動などに熱い思いを抱き、夢に向かってチャレンジする取り組みに対し10万円を上限に支援する事業。

ます。「小さい時から木登りが大好きで、小学2年生の時に祖母にすすめられて。」と話すのは、同シリーズの東北年間ランキング4位の芹乃さん。「5年生になってからはほぼ毎日、放課後最低でも2時間、長い時は8時間も練習。楽しくって、つい夢中になっちゃう」と笑います。「年齢・性別関係なく、お互いにアドバイスしたり、取り組んでいた課題をクリアできた時には皆でグータッチしたり。知らない子とも仲良くなれるし、切磋琢磨できるのも楽しい」と二人。『利府町夢チャレンジ事業』は、大会参加費や旅費などに活用。「スポーツが苦手な人でも気軽に楽しめるし、完登できた時の達成感もすごい！ぜひ一度体験してみませんか」と話します。

Good Movement 活動日記 Vol.20

地域おこし協力隊

総務省地域おこし協力隊制度を活用し、利府町の活性化と社会起業家の育成を目指すプロジェクト



公式LINE

こどもたちの夢と眠りを応援！ 「よく眠れる町フェスティバル」開催

8月8日(金)、イオンモール新利府にて「第3回 よく眠れる町フェスティバル」を開催しました。「こどもの夢と眠りを応援する」をテーマに、親子で楽しめる体験をメインに、モルック体験や野球教室、モルタルや看板作りなど夏休みの自由研究にもぴったりの内容が盛りだくさん。平日開催にもかかわらず、来場者は約1,000人！来場された方々に地域の魅力をたっぷり感じていただけた一日となりました。ご来場いただいた皆さま、ありがとうございました！



地域の文化を未来へつなぐ。 染殿神社の子供神輿がイオンモールに登場！

8月23日(土)に染殿神社の子ども神輿を体験できる特別企画を行いました。染殿神社は、1200年の歴史を持つ由緒ある神社で、総代の方々のご協力のもと、コロナ前まで実際に使われていた神輿をイオンモールに持ち込み、子どもたちが担ぐ貴重な体験が実現しました。地域の高齢化が進み眠っていた子ども神輿を通じ、子どもたちに利府町の魅力や歴史に触れるきっかけを作りたいと企画しました。ご協力いただいた総代の皆さま、足を運んでくださった皆さま、ありがとうございました！



企画の様子は
こちら

